

幻想的な見学坑道

令和4年11月10日

鏡野中学校2年 竹井 歌音、湯浅 美紅、鈴木 彩乃

1955年に国内で、原子力発電の燃料となるウラン鉱石を探していた人たちが、人形峠で初めて見つけた。

今から約65年前にウラン鉱石を探すために掘った坑道(トンネル)を、見学用に整備したのが見学坑道で、その入り口はコンクリートで作られていて、中の様子は土のような壁の側面が崩れないように、鉄骨とモルタル(コンクリート)で支えていた。奥に入るにつれて壁の側面が茶色くなり、地面から高さ1mぐらいのところにウランがあり、ブラックライト(紫外線)を当てると蛍光作用により緑色に光った。

放射線の影響を受けないように、坑道の中にもいい時間を10分程度に制限したり、換気をして気体状の放射性物質の濃度を薄くしていた。

坑道に入ってみると、天井から水がぼたぼた垂れていたところには鍾乳石ができていた。また、天井を見るとコウモリが逆さまにぶら下がっていた。

普段、入ることのないので貴重な体験をすることができた。ウランが光るように見えた光景はとても幻想的だった。冒険をしているような気分で楽しかった。



見学坑道の入口



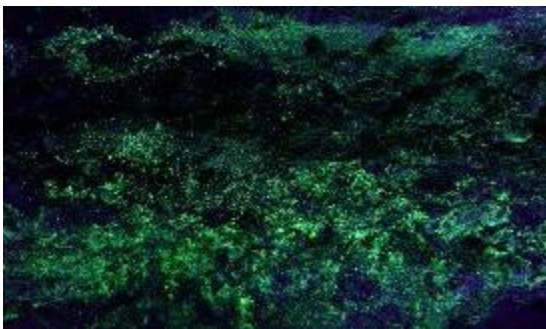
坑道に入ると鉄骨とモルタルで支えていた



坑道内の様子（壁面の茶色部分がウラン鉱石）



ブラックライトを当てると幻想的に



ウランが蛍光している様子



コウモリがぶらさがっていました